

魅力ある公的施設・インフラの
大胆な公開・開放

国土交通省

「東京湾アクアライン」公開拡充に向けた取り組み

- 現状夏休み特別企画として実施している「アクアライン探検隊」は応募数も多く参加者から好評を得ていることから、海底トンネル道路下の緊急避難通路等の**有料での公開の拡充(通年化)**に向けた取り組みを進める。

現状

- 年1回(夏休み特別企画)お客さま感謝イベント「サマーフェスティバル in 海ほたる」の中で、アクアライン探検隊を募集。
- 海底トンネル道路下の緊急避難通路の見学を実施。
- 参加者数は220人。(約4,900人の応募(20倍))



今後の予定

- 公開に向けたスケジュール(案)
 - ・平成30年夏頃 アクアラインの公開拡充の方向性を決定
(予約システム、体制の構築)
 - ↓
 - ・**平成30年度内 アクアラインの公開開始**
- 公開拡充に向けた検討事項
 - ・日数、人数、料金、年齢等の参加条件
 - ・旅行会社の事前申し込み方法
 - ・危険箇所(段差、暗部、突起物等)への対策措置、危険行為への安全対策(セキュリティチェック) 等



○案内 コースは、「東京湾アクアラインの事業概要(映像視聴など)」及び「海底トンネル道路下の緊急避難通路の見学」を想定。

「首都圏外郭放水路」公開拡充に向けた取り組み

- 世界最大級の地下河川「首都圏外郭放水路」(埼玉県春日部市)には年間約2万人が訪れ、壮大なスケールを体感。
- インフラツーリズムの拡大及び地域活性化に向け、**春日部市・民間事業者と連携のもと、民間開放**を展開。

現状

- 首都圏を水害から守る「首都圏外郭放水路」の施設見学では、巨大な柱が並ぶ調圧水槽が“地下神殿”と称され、地下に広がる壮大なスケールを体感できることから、国内外から多くの観光客が来訪。
- 平成29年度には、調圧水槽の見学会に約2万人が参加しているものの、**潜在的な需要が存在**。
- 平成30年3月に「**首都圏外郭放水路**」を**都市・地域再生等利用区域に指定**し、民間事業者も河川敷地で営業活動が可能になる**河川のオープン化を実施**。



高さ18m、幅78m奥行き177mの巨大な“地下神殿”調圧水槽

今後の予定

- 平成30年度より、さらなる見学者を受け入れるために、春日部市や民間事業者と**社会実験を実施**。
- 社会実験では、施設見学会の実施回数や1回あたりの定員増員、採算性等について検討。
- 社会実験等を実施し、旅行会社経由による見学受付の実施についても検討。

「第二海堡」上陸ツーリズム実現に向けた取り組み

- 急増する訪日外国人旅行客等に対する観光資源として、明治時代に首都防衛のために海上要塞として建設された「第二海堡」について、利用者ニーズを十分に把握し、魅力ある**上陸ツーリズムの早期実現**と、**有料での公開(通年化)**に向けた取り組みを進める。

現状

○東京湾の中央に位置する「第二海堡」は、第二次世界大戦後から現在に至るまで、ほとんど人が立ち寄る事はなかった。

○今日、第二海堡の非日常的シーンが注目されており、観光資源としての一般開放と、上陸ツーリズム実現に着手。

・平成29年度

○3月:上陸ツーリズム実現を目的とした**「第二海堡PT」を発足**
(関東地方整備局内)

○3月:国土交通省、海上保安庁、地方自治体、旅行会社、船舶運航会社による**「現地踏査」及び「意見交換会」**を実施(主催:港湾局、関東地方整備局)。



今後の予定

○公開に向けたスケジュール(案)

・平成30年度

初旬:官民連携した協議会の設置、運営(国、地方自治体、民間等)、ニーズアンケートの実施、料金設定等の検討等
年度内:**トライアルツアーの開始**

・平成31年度

初旬:受入環境整備開始、年度内:**本格ツアーの開始**